

# 八重とふるさと「会津」 —ハンサム・ウーマンを育てた故郷— 後半

春学期は、八重を育てた「会津」をテーマに展開いたしました。秋学期(後半)は、豊かな土壌の会津で育った八重の足跡を史料に基づき、八重の心の機微も追いつながら人物像に迫ります。八重の資料は数多く残っているわけではありませんが、兄の山本覚馬をはじめとする人々との交流、八重が京都で過ごした住居(現・新島旧邸)、そして残る資料から窺われる人柄を通じて人間・新島八重を浮き彫りにしていきます。今多くの書籍で語られている八重像は本当にそうなのか、みなさんの目で確かめてみませんか。ご案内は、同志社社史資料センターより、NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」企画委員を務める社史資料調査員小枝弘和です。

各回2クラス クラス1 15:00~16:30 クラス2 18:00~19:30 各クラス 定員 50名

\*お申込みが10名に満たない場合開講を取りやめる場合があります。

受講料 5回一括12,000円 各回3,000円

## 第6回 『山本覚馬と八重』

クラス1・2共通

10/4 金



講師 露口 卓也  
(同志社大学 文学部教授)

### ココに注目!

八重という人を理解する上で、兄覚馬の存在はきわめて重要です。砲術師範という家職に一人倍の関心をもって育ち、会津籠城戦では身につけた技能をもって戦い、京都の文明開化に積極的に関わっていく八重の行動において、覚馬の見識と活動は決定的な影響力がありました。覚馬を追うことによって八重の青春をうかがってみたいと思います。

## 第7回 『資料に見る八重と 裏の夫婦関係』

クラス1・2共通

10/18 金



講師 小枝 弘和  
(同志社大学 同志社社史資料センター社史資料調査員)

### ココに注目!

木を見て森を見ずという言葉があります。実際文字で夫婦の間柄は残されていますが、文字以上に資料の体裁を含めた視覚を通じて得るさまざまな情報が現代の私たちに当時の状況を語ってくれます。この講義では資料を提示しながらその資料の持つ意味を皆さんと一緒に考え、二人の夫婦像に迫ります。

## 第8回 『新島旧邸の魅力』

クラス1・2共通

11/15 金



講師 布施 智子  
(同志社大学 同志社社史資料センター社史資料調査員)

### ココに注目!

裏と八重の私邸として1878(明治11)年に建てられた新島旧邸(京都市指定有形文化財)。伝統的な和風建築の手法に、「洋」の要素が取り入れられた興味深い住宅です。2人が実践したであろう洋風の生活スタイルや、同志社の学生をはじめとした人々との交流など、家庭における新島夫妻の姿と暮らしに迫ります。

## 第9回 『八重の社会活動と その思想』

クラス1・2共通

11/22 金



講師 小枝 弘和  
(同志社大学 同志社社史資料センター社史資料調査員)

### ココに注目!

八重の社会活動といえば篤志看護婦です。日本で最初に勲七等宝冠章を受けた3人の篤志看護婦のひとりとなりました。しかし、なぜ篤志看護婦となったのか、わからないことが多々あります。しかし、残された写真や八重の資料は私たちに多くを語ります。この講義では、資料から八重の社会活動に対する思想とその源を探ります。

## 第10回 『天皇家と八重』

クラス1・2共通

12/6 金



講師 小枝 弘和  
(同志社大学 同志社社史資料センター社史資料調査員)

### ココに注目!

新島旧邸は京都御苑に隣接していることをご存知でしょうか。八重はその後半生、叙勲を受けるほど国から評価された人物です。特に京都御所で行われた大正天皇と昭和天皇の御大典の時には大宴に招かれました。さらに、八重の和歌などを見ていくと、彼女の天皇家に対する心情が読み取れます。会津戦争を経験した八重の講座の集大成として晩年の彼女の心情を読み解きます。

コーディネータ



小枝 弘和  
(同志社大学 同志社社史資料センター社史資料調査員)

1975年生。同志社大学大学院文学研究科修士課程修了。佛教大学院教育学研究科博士後期課程満期退学。博士(教育学)。同志社大学同志社社史資料センター社史資料調査員。2013年大河ドラマ特別展「八重の桜」企画委員。主著『William Smith Clarkの教育思想の研究—札幌農学校の自由教育の系譜—』(思文閣出版、2010年)、共著『時代を駆ける新島八重』(歴史春秋社、2012年)

# 「グローバル経済の読み方」

講師

同志社大学ビジネススクール教授 浜 矩子

## 受講生とともにグローバル経済の真相を読み解いていく90分です。

講義は、浜教授の同志社ビジネススクールと同じ形式。グローバル経済の最新課題をテーマに、毎回受講生とともに90分を作り上げていくユニークなスタイルです。受講生は与えられたテーマに関する課題認識を用意し、講義の最初に発表。それを切り口に、浜教授が「グローバル経済」の真相に迫ります。

### ①開講日

第1回 10/31 木  
第2回 11/28 木  
第3回 12/26 木  
第4回 1/30 木  
第5回 2/27 木

### ①時間

19:00~20:30

定員 15名

(定員以上のお申込みがあった場合は抽選で決定いたします)

### ①受講料

50,000円(一括のみ)

### ①各回の流れ ※本講座初参加の方には、初回のみ18時30分スタートです。

- 第1回 グローバル経済に関わる旬のトピックを題材に講義～討論 終了時に次回「キーワード」が発表されます。
- 第2回 一ヶ月かけて作成された「質問」を受講生各自が発表。 それらを切り口に講義が展開されます。
- 最終回 最終回は、提出されたレポートに基づき受講生一人ひとりの5分間スピーチと討論です。 レポートのテーマは4回目終了時に発表されます。

### 講師プロフィール

浜 矩子 同志社大学ビジネススクール教授



一橋大学経済学部卒業後、1975年三菱総合研究所入社。1990年三菱総合研究所ロンドン駐在員事務所所長兼駐在エコノミスト就任。1998年三菱総合研究所主席研究員・経済調査部長。2002年秋より同志社大学大学院ビジネス研究科教授 専門は「国際経済学」「国際金融論」「欧州経済論」

講義の合間を縫って内外のメディアに登場。各局の時事・ニュース番組にマクロ経済に関するコメンテーターとして、全国紙をはじめ、京都新聞、The Japan Times、Financial Times、Les Echos、Open Democracy、毎日エコノミスト誌他月刊誌、Web site Cafeglobe.com等にコラムやコメントを提供している。

近著:『「アベノミクス」の真相』(2013年5月中経出版) 『これから3年、日本と「地球経済」で起きること』(2013年5月実業之日本社)『超入門・グローバル経済—「地球経済」解体新書』(2013年1月NHK出版新書 396)『新・国富論 グローバル経済の教科書』(2012年12月文春新書)『「通貨」はこれからどうなるのか』(2012年4月PHPビジネス新書)『中国経済 あやうい本質』(2012年3月集英社新書)